令和３年度報徳看護専門学校自己点検・自己評価報告書

本年度も昨年に引き続き COVID-19 感染拡大の対策が求められ、オンライン授業や学内実習が余儀なくされた。教職員会議もオンライン会議等が多い１年間であった。本校の自己点検・自己評価の目標は定期的な自己点検・自己評価によって、現状の問題を明確にし、教育の質の向上を目指す、結果を学校のホームページに公表することである。評価の結果・課題の検討に加え、学校関係者評価委員会からの客観的意見を取り入れ具体的改善策を検討し、次年度の学校運営に活かす取り組みを計画した。

１．　学校のディプロマポリシー（卒業時の学生像）

１．　人を尊重できる姿勢と高い倫理観をもった看護実践ができる。
２．　感性豊かな人間性が備わっている。
３．　対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解し、受け入れられる。
４．　対象のニーズを考える視点をもち科学的思考に基づいた看護を実践できる。
５．　保健・医療・福祉チームの一員として協働・連携する自覚ができる。
６．　専門職として継続学習や専門性探求のための主体的学習ができる。
７．　自己の心身の健康を維持し、自己の行動に責任をもつことができる。

上記ディプロマポリシーについてルーブリックを用いて評価した。

各学年のディプロマポリシー達成目標レベル

学年達成目標	レベル１（1年終了時）	必要性がわかる、知識としてわかる
	レベル２（2年終了時）	必要性がわかり、一部行動できる。
	レベル3（3年次前期）	支援を受けて実践できる。行動できる
	レベル４（3年実習終了時）	少しの支援で実践できる。行動できる

表1　各学年目標にほぼ達成した割合

項目	1年（レベル1）学生数29人		2年（レベル２）学生数42人		3年（レベル４）学生数35人	
	人	（%）	人	（%）	人	（%）
1 人間尊重に基づく倫理観のある看護実践能力	22	(75.9)	34	(81.0)	22	(62.9)
2 感性豊かな人間性が備わっている	24	(82.8)	37	(88.0)	20	(57.1)
3 統合的対象理解と他者を受け入れる能力	13	(44.8)	36	(85.7)	9	(25.7)
4 科学的根拠に基づく看護実践能力	14	(48.3)	35	(83.3)	8	(22.9)
5 チームとしての連携・協働	23	(79.3)	36	(85.7)	15	(42.9)
6 継続学習、主体的学習習慣、姿勢	19	(65.5)	36	(85.7)	8	(22.9)
7 自己の心身のマネジメントと責任	21	(72.4)	38	(90.0)	21	(60.0)

評価結果（表１）より１年次では「３統合的対象理解と他者の受け入れ」「４科学的根拠に基づく看護実践能力」の達成が半数以下であり、他は 60～80%達成している。２年次ではすべての項目で 80～90%達成している。３年次では「３統合的対象理解と他者の受け入れ」「4 科学的

根拠に基づく看護実践能力」「6 継続学習・主体的学習習慣」が 20%台と低く、他の項目も達成度が 40～ 6 0%と低い。1 年次の低い項目については授業・演習での基本的知識・技術の強化が課題である。2 年次の必要性がわかり、一部行動できるレベルでは高いものが、3 年次の実習終了後に統合的対象理解、看護実践能力、継続学習・主体的学習習慣が実践できていないことは、実習を通しての学びが不十分と感じているといえる。COVID-19 の感染拡大による実習が減ったことも影響あると思われるが、今後も実習での指導を強化することが課題である。

2．令和3年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

昨年度の評価を基に、本年度の活動目標を以下のように設定し取り組んだ。

1．自分の“できていること”に注目し、それを共有することでポジティブ思考を心がける。
2．教材研究、スキルアップ・キャリアアップへの自己の取り組みと相互支援する環境をつくる。
3．教職員一人ひとりの“育てたい看護師像”を描ける新カリキュラム構築に取り組む。
4．経営的側面への参画意識を持つ。(無駄をなくす、超過勤務を減らす、入学定員の確保、退学者をなくす)
5．実習において学生の気づきを尊重した、達成感のもてる実習になるよう支援する。
6．卒業時の看護実践能力の達成を目指し、1 年次から卒業まで継続的な取り組みをする。

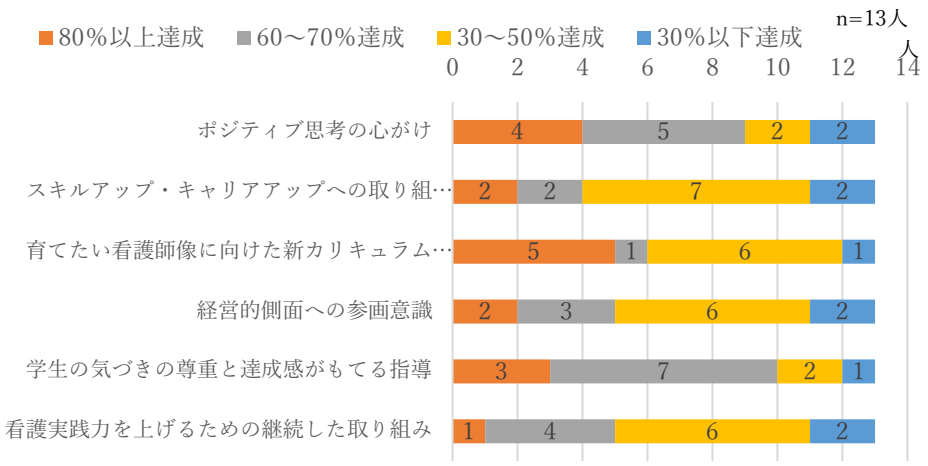

図1　活動目標の評価

活動目標の教員の達成度の調査結果（図 1 ）より、60%以上達成できたとする人数が半数を超えた項目は「ポジティブ思考の心がけ」13 人中 9 人と、「学生の気づきの尊重と達成感がもてる指導」13 人中 10 人の 2 項目であった。他の項目は 60%以上達成できたとする教員が少なかった。今年度は「新カリキュラムの構築」に取り組んだが、検討会を通して取り組めたとする意見と、勉強不足を感じた教員がいた。「経営的側面への参画意識」では、入学定員の確保、超過勤務の低減が課題である。「スキルアップ・キャリアアップへの取り組み」は日々の業務で余裕がなかったが、オンラインでの研修会には参加できた。目標達成に向けたさらなる個人の努力と職場全体として取り組みが課題である。

３．令和3年度自己点検･自己評価の実施･結果

１）実施日：2022 年 1 月 31 日～2022 年 2 月 14 日

２）対象者：全教職員 19 人（教員 13 人、事務職 6 人）

３）評価項目：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施しているが、実施に当たり、全員が共通理解し適切な評価が行われるよう評価項目を見直した。大項目はレーダーチャート（図 2）に示す。

４）評価基準：

４　適切（当てはまる）
３　ほぼ適切（ほぼ当てはまる）
２　やや不適切（あまり当てはまらない）
１　不適切（当てはまらない）

５）結果の大項目年度比較と課題：

令和 3 年度自己点検・自己評価の結果は、全体平均 2.7 であった。令和 2 年度の 2.8 よりわずかに低かった。全体に 0.1～0.4 低下した。特に「学生の受け入れ募集」が 0.4 下がっていた。3.0 以下の項目は「財務」2.8、「社会貢献・地域貢献」2.7 であった。「学生の受け入れ募集」「財務」「社会貢献・地域貢献」の 3 項目は令和 4 年度の重点課題として取り組んでいく必要がある。

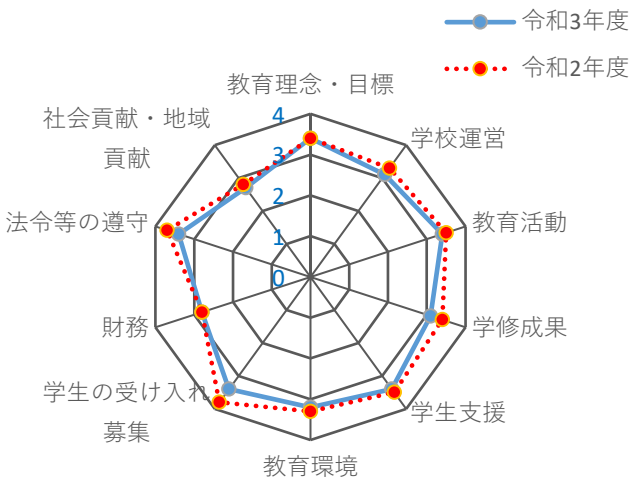

図2　自己点検・自己評価　大項目平均比較

4．評価項目の結果と課題

1） 教育理念･目標（図 3）

全体平均では昨年度と同じであった。本項目はカリキュラムの評価ともいえるもので、3.5 を下回った項目は「②学校における看護教育の特色の特定」3.4、「④教育理念等の学生の学習活動の指針としての浸透」3.2、「⑤教育目標・卒業時の学生像の地域社会のニーズの踏襲」3.0 であった。本年度は新カリキュラム構築に向けての検討を重ねる中で、教育理念・教育目的・卒業時の学生像を明確にすることができた。来年度は新カリキュラムを実践する中で、『本校の看護教育の特色の明確化』、『理念・教育目的・卒業時の学生像を学生に浸透させる』、『新カリキュラムに取り入れた地域社会のニーズを考慮した実践をする』が課題である。

評価項目	平均点	
	R3年度	R2年度
① 教育理念・教育目的・卒業時の学生像（またはDP）を明文化	3.7	3.7
② 学校における看護教育の特色の特定	3.4	3.6
③ 教育理念、教育目的、卒業時の学生像（またはDP）の教職員の教育活動の指針	3.5	3.6
④ 教育理念、教育目的、卒業時の学生像（またはDP）は学生の学習活動の指針として浸透	3.2	3.1
⑤ 教育目標・卒業時の学生像（またはDP）は地域社会のニーズを踏襲	3.0	3.2
総平均点	3.4	3.4

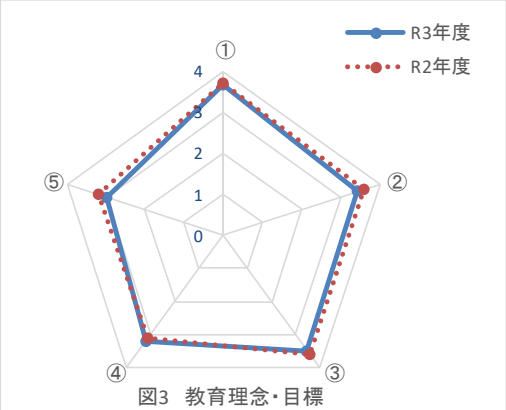

図3 教育理念･目標

2） 学校運営（図4）

全体的には昨年度よりやや低かった。3.0 より低かった項目は「②事業計画に沿った財政基盤、施設設備、運営計画と将来構想の明文化」2.9、「④人事、給与に関する制度が諸規定に明文化され、教職員への周知」2.7、「⑦情報システム等による業務の効率化」2.9 の 3 項目であった。

課題は、『施設設備の改善計画、将来構想の明確に示すこと』、『人事・給与に関する制度の明文化と職員への周知』、『情報システムをさらに向上させ、その上での業務の効率化について具体的に考えること』である。

評価項目	平均点	
	R3年度	R2年度
① 教育目的に沿った教育方針・活動目標の明確化と運営	3.4	3.7
② 事業計画に沿った財政基盤、施設設備、運営計画と将来構想の明文化	2.9	3.4
③ 運営組織や意思決定システムの諸規定への明文化、運営会議および教職員会議等への反映と機能	3.2	3.4
④ 人事、給与に関する制度の諸規定への明文化と教職員への周知	2.7	3.1
⑤ 教務及び事務の組織の整備、校務分掌は明文化	3.1	3.6
⑥ 教育活動に関する情報公開、自己評価結果の公開	3.4	3.1
⑦ 情報システム化等による業務の効率化	2.9	3.1
⑧ 学校運営への学生の意見の反映、学生主体の運営活動の場での反映	3.0	3.2

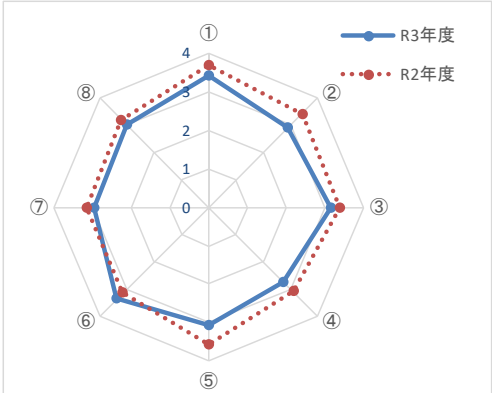

図4 学校運営

3） 教育活動（図5）

全体的に昨年度と同様の評価を維持している。他との重複のため 3 項目を変更したが、すべての項目が 3.0 以上である。カリキュラムの編成を問われる項目が多く、教育活動・指導体制は適切であるといえる。維持できているが新カリキュラムの実践の年であり、課題は『新カリキュラムの中で位置づけを明確にしたこと、改善したことの結果が出るよう実践することとその評価をすること』、『教員の資質向上にさらに努めること』である。

評価項目	平均点	
	R3年度	R2年度
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等の策定	3.5	3.6
② 教育理念、育成人材像を踏まえ、教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保の明確	3.4	3.7
③ カリキュラムの学習内容にまとまり、順序性をふまえた構築	3.4	3.5
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラム、教育方法の工夫・開発などの実施	3.2	3.3
⑤ 関連分野の関係施設等との連携によるカリキュラムの作成と見直し	3.2	3.3
⑥ 授業評価の実施・評価体制	3.5	3.7
⑦ 職業に関する外部関係者からの評価の取り入れ	3.5	3.5
⑧ 成績評価・単位認定の基準は明確化	3.5	3.7
⑨ 資格取得の指導体制、カリキュラムとの関連した位置づけ	3.6	3.7
⑩ 卒業時の学生像（DP）への育成に向け授業のための教員の資質向上の取り組み	3.2	
⑪ 授業が実務経験のある優れた教員により行われるための関連分野との連携	3.3	3.5
⑫ 先端的知識・技能を修得のための研修や指導力育成など資質向上のための取組み	3.2	3
⑬ 職員の能力開発のための研修、学会等への参加	3.2	3.1
⑭ R2 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）の内容のまとまり、順序性をふまえた位置づけ		3.3
⑮ R2 人材育成目標に向け授業の要件を備えた教員の確保		3.5
総平均点	3.4	3.5

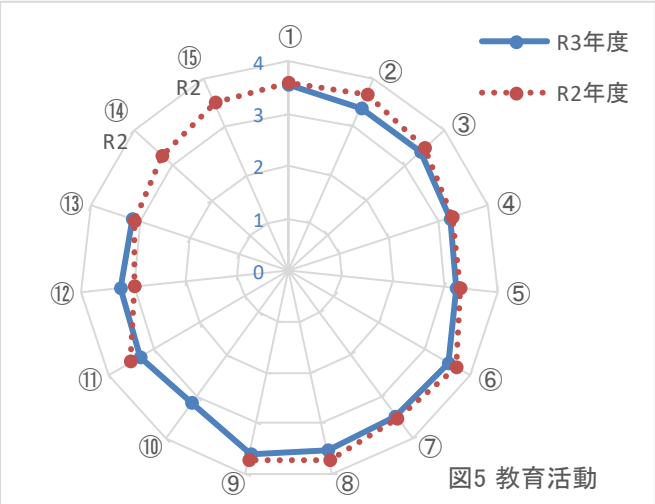

図5 教育活動

4）学修成果（図6）

昨年度平均 3.4 から本年度は 3.1 とやや低下している。就業率向上、資格取得率の向上については維持できている。「③退学率の低減の取り組み」について評価は昨年より低いが、実際の退学者は昨年度より少ない。「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価の把握」「⑤卒業生のキャリア形成への効果の把握」はいずれも 2.5 と昨年度に引き続き低く、改善の計画をしていたが、具体的な行動に至らなかった。

課題は、『卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価の把握』、『卒業生のキャリア形成の状況を把握し、卒業生と在校生の交流の機会をつくる』を実践し、教育活動の改善に活用することである。

	評価項目	平均点	
		R3年度	R2年度
①	就業率向上への取組み	3.8	3.9
②	資格取得率（国家試験）向上への取組み	3.5	3.5
③	退学率の低減への取り組み	3.1	3.4
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価の把握	2.5	2.9
⑤	卒業生のキャリア形成への効果の把握、学校の教育活動の改善への活用	2.5	2.7
	総平均点	3.1	3.4

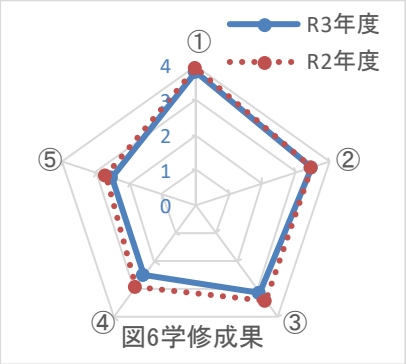

図6学修成果

5）学生支援（図7）

全体的にはほぼ同様の評価を維持できている。学生支援は適切に行われているといえる。やや低い項目は「⑤課外活動に対する支援体制の整備」3.2、「⑦保護者への定期的な情報提供」3.4、「⑧卒業生への進学、就労に関する支援体制」3.0、「⑨社会人のニーズをふまえた教育環境の整備」3.2、「⑩専門的な技能の育成、職業的自立に向けた支援体制と臨床との連携」3.2 である。

課題は『課外活動に対する学生への支援体制の問題の把握と改善』『担当を中心とした卒業生への進学、就労に関する支援の機会をつくる、体制をつくる』、『ニーズを確認し、それを踏まえた教育環境の整備』『的技能の育成や職業的自立に向けた臨床との連携のさらなる強化』である。

評価項目	平均点	
	R3年度	R2年度
① 進路・就職に関する支援体制は整備	3.5	3.8
② スクールカウンセラーの配置など学生の健康や学生相談に関する体制を整備	3.8	4.0
③ 学生の経済的側面に対する支援体制の整備	3.6	3.8
④ 学生の健康管理を担う組織体制	3.7	3.8
⑤ 課外活動に対する支援体制の整備	3.2	3.2
⑥ 学生の安全管理（災害共済保険加入等）	3.8	3.9
⑦ 保護者への定期的な情報提供	3.4	3.3
⑧ 卒業生への進学、就労に関する支援体制	3.0	3.3
⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備	3.2	3.3
⑩ 専門的な技能の育成および職業的自立に向けた支援体制と臨床との連携	3.2	3.1
総平均点	3.4	3.5

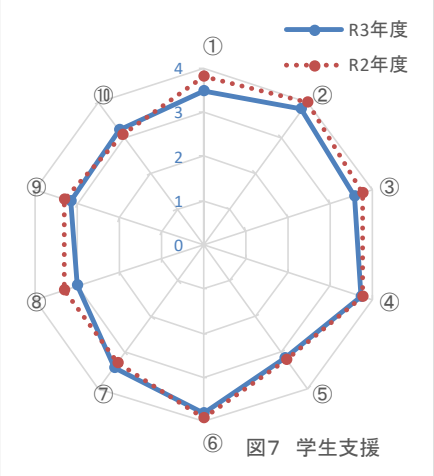

図7　学生支援

６）教育環境（図８）

全体的に昨年と同様であるが、「①施設・設備の教育上の必要性に十分対応した整備」が 2.8 と低い。

課題は『環境の整備、教育のための機器の整備、新しい教材の導入等に計画的に取り組むこと』である。

	評価項目	平均点	
		R3年度	R2年度
①	施設・設備の教育上の必要性に十分対応した整備	2.8	3.0
②	実習目標が達成されるような実習環境の整備	3.4	3.5
③	防災訓練を含め、防災に対する体制の整備	3.5	3.6
	総平均点	3.2	3.3

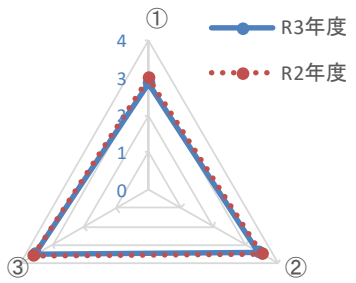

図８　教育環境

７）学生の受け入れ募集（図９）

項目の一部変更により単純に比較できないが、昨年度 3.8 から本年度 3.4 と低くなっている。低くなった主なものは「①学生募集広報活動の時期、方法は効果的かつ適正」3.4、「②学生募集活動で資格取得・就職状況の正確な伝達」3.4 である。令和 3 年度の入学者が定員に満たなかったことから募集・広報活動を検討し、募集活動に力を入れた。その効果を令和 4 年度入学者の状況で結果を評価する。

課題は『募集活動に SNS の活用』、『さらなる活発な広報活動』、『広報活動について教職員への周知と一丸となっての広報』である。

	評価項目	平均点	
		R3年度	R2年度
①	学生募集広報活動の時期、方法は効果的かつ適正	3.4	3.8
②	学生募集活動で、資格取得・就職状況情報の正確な伝達	3.4	3.9
③	学納金（入学や在学中に係る費用等）の情報の明示	3.6	4.0
④	学生の受け入れ方針に基づく入学者選抜の制度や運営体制の整備、入学者選抜の適正な実施	3.4	
⑤	志願者状況、定員充足率の分析・評価を募集活動の向上への活用	3.2	
⑥ R2	入学者選抜の時期、方針、方法の適切性		3.6
	総平均点	3.4	3.8

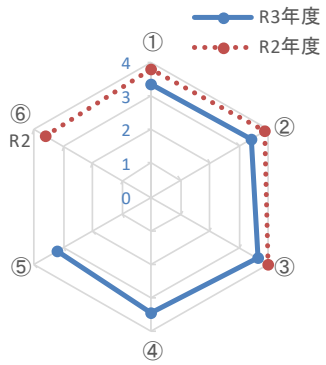

図９　学生の受け入れ募集

８）財務（図 10）

平均点は昨年度と同様であるが「①中長期的学校の財務基盤の安定」2.3 と低い。

課題は、定数充足率の不安定が財政基盤に影響しているため、『さらなる学生募集に努力し、定数充足率を上げていくこと』、『新カリキュラムの実習施設増加と実習費の妥当性の検討』である。

	評価項目	平均点	
		R3年度	R2年度
①	中長期的、学校の財務基盤の安定	2.3	2.8
②	予算・収支計画は有効かつ妥当	2.8	2.8
③	財務について法人の会計監査の適正さ	3.2	3.2
④	法人としての財務情報公開の体制整備	3.0	2.5
	総平均点	2.8	2.8

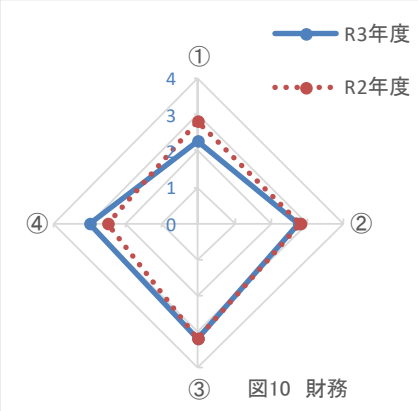

図10　財務

9）　法令等の遵守（図 11）

昨年度の平均点は 3.7 であったが、本年度は 3.4 であった。法令等の遵守はできているといえ、個人情報に関する対策にも問題はない。自己評価結果の公表もされているが「③自己評価の実施と問題点の改善」3.0 であった。自己点検・自己評価の結果から改善策が明確とはいえず改善されていないこともある。

課題は『自己点検・自己評価の結果からの具体的改善策を検討し、実施していくこと』、『IT 化に伴うスムーズな情報提供に合わせたさらなる情報管理の徹底』である。

	評価項目	平均点	
		R3年度	R2年度
①	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営	3.8	3.9
②	個人情報に関し、その保護のための対策	3.4	3.7
③	自己評価の実施と問題点の改善	3.0	3.5
④	自己評価結果のホームページへ掲載と閲覧制限ない公開	3.5	3.7
	総平均点	3.4	3.7

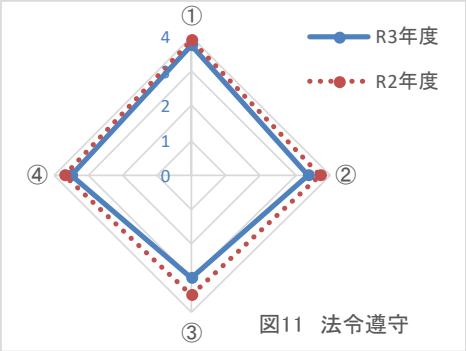

図11　法令遵守

10）**社会貢献・地域貢献（図 12）**

全体的には昨年同様やや低い評価である。「①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献」2.7、「③地域に対する公開講座の受託等の積極的実施」2.4 と低い。一昨年まで文化祭時の地域住民への働きかけの機会、地域の行事への参加による社会貢献の機会があったが昨年は COVID-19 感染拡大の影響で、その機会がなかったことによるといえる。

課題は来年度“いちご一会国体”へのボランティア参加に全学で取り組むことになっていることから『積極的な社会貢献・地域貢献を目指す』、『栃木県と宇都宮市の SDG s の学生中心の取り組みをさらに拡大させる』、『可能な形で学校の資源を広く公開し貢献する方策を検討し実施する』ことである。

	評価項目	平均点	
		R3年度	R2年度
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献	2.7	2.9
②	学生のボランティア活動を奨励、支援	3.0	2.9
③	地域に対する公開講座の受託等の積極的実施	2.4	2.6
	総平均点	2.7	2.8

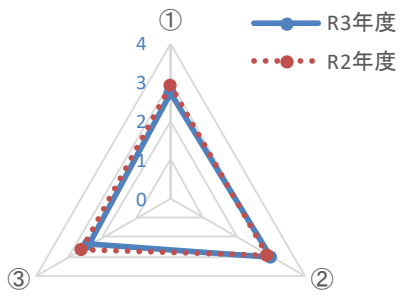

図12　社会貢献・地域貢献

学校関係者評価報告

令和４年７月

報 徳 看 護 専 門 学 校
学校関係者評価委員会

「令和３年度　報徳看護専門学校自己点検・自己評価結果」を基に学校関係者評価を行った結果を報告いたします。

１．学校関係者評価委員

・実習施設の看護部長又は副看護部長
・医療法人報徳会統括事務長
・同窓会会長
・保護者代表

２．評価結果

（１）学校のディプロマ・ポリシー（卒業時の学生像）の評価について

・３年次において「統合的対象理解と他者を受け入れる能力」については、２年次の達成度に比べて 60%低下している。この結果の原因については、コロナ禍の影響で実習が十分に出来ていなかったことが考えられる。他者を受け入れる能力が実習終了後に低下することは、実習と学校の授業が結びついていないと考えられる。また、社会体験不足等によるコミュニケーションが不得手な学生が増えてきていると考えられる。
・継続学習、主体的学習習慣の達成レベルも 1、２年次に比べて低い。継続して学習する意識が低くなる傾向であると考えられる。
・「人間尊重に基づく倫理観のある看護実践能力」の到達度が２年次よりも３年次が低下しているのはコロナ禍の影響と考えられるが、「感性豊かな人間性が備わっている」や「自己の心身のマネジメントと責任」の到達度までもが２年次よりも３年次に低下していることは、臨地での実習時間の不足や、学校生活と日常生活に支障を来たしていたことが反映されていたことも考えられ懸念される。しかし、教員との関係性やクラスの学生数が小規模である専門学校の特徴からグループダイナミクスが発揮されると到達度の上昇が期待できると思われる。また、「心身のマネジメントと責任」は、就職後も自己の感情表出が不得手なことが見受けら

れ、ストレスを抱え過ぎてしまうことが懸念されるため学生支援をお願いしたい。

（２）評価項目の結果と課題

4)学修成果

「・④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価の把握」、「⑤卒業生のキャリア形成への効果の把握、学校の教育活動の改善への活用」について昨年度と比較して低下しているが、改善計画に基づいた具体的な行動に至らなかった要因は分析されていない。しかし、卒業生が就職した病院と学校とで連携がとれる場を作る必要があり、本会議ではその病院の職員が出席しているので連携が取りやすく速やかに対応できると考えられる。

7)学生の受け入れ募集について

・学生が報徳看護専門学校の入学を選んだ理由として、教員の指導が熱心に行われているという話を聞くことが多い。実習の際も病院の学生指導者と教員との協力で指導が行われている。

・募集については現役生だけでなく、コロナ禍で職を失った方も募集していけば応募数が増えるのではないか。

10)社会貢献・地域貢献について

・昨年と同様。全体的に平均点が低い。

（３）その他の意見

・各項目の【課題】について、別途項目にて具体的に記載されていると次年度に評価しやすい。

・iPad による電子テキストを用いた授業で、便利な面も多いが、学習効果が十分得られないということも懸念されるので、学習の指導がより必要と思われる。

おわりに

2021 年度は 2022 年度からのカリキュラム改正に向けた準備の年であり、前年に引き続く COVID-19 感染症に影響を受けた年でした。評価結果からも臨地実習の変化による対象者との接触の機会の減少の学生への影響は避けられなかったと思われます。その他は昨年と変わらない評価であったといえます。学校関係者評価委員会からの意見をいただき課題がさらに明確になりました。職員の資質向上のための取り組み、卒業生のキャリア形成状況の把握・支援、積極的な学生受け入れの取り組み等の課題を 2022 年度の重点目標に設定し、解決のための取り組みも計画しました。課題を一つ一つ解決し、学生を第一に考えたより良い学校運営に取り組んでいきたいと思います。

令和 4 年 6 月
学校長　山根美智子

【お問い合わせ先】

住所：栃木県宇都宮市上横田町 1302-12
電話番号：028-688-4040（代）
報徳看護専門学校
学校評価委員会